

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(5月) -ゼロ%近辺まで低下

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前月比で下落

5月29日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏のH I C P (Harmonized Indices of Consumer Prices: EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

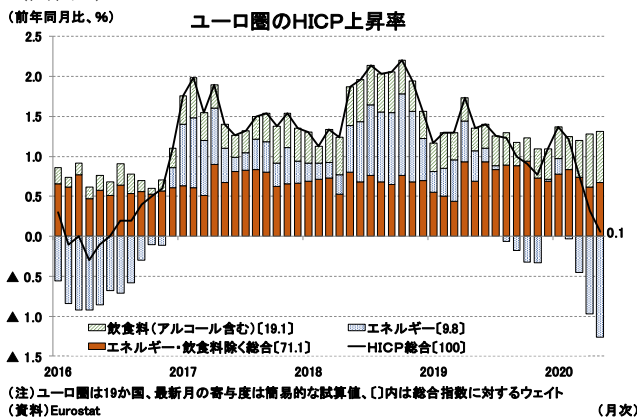
【総合指数】

- ・前年同月比は+0.1%、市場予想¹(+0.1%)通りで、前月(+0.4%)から減速(図表1)
- ・前月比は▲0.1%、予想(▲0.1%)通りで、前月(同+0.3%)から減速

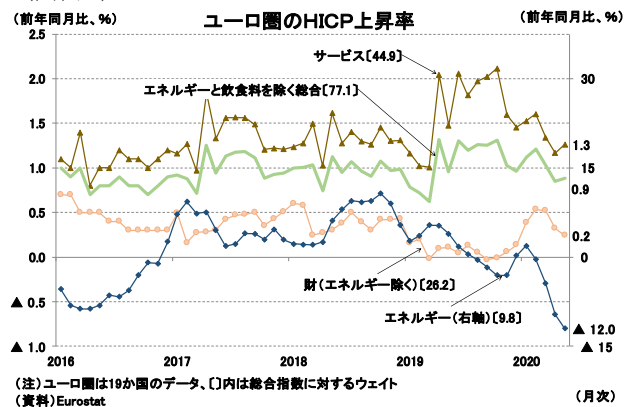
【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は+0.9%、予想(+0.8%)より上振れ、前月(同+0.9%)から加速(図表2)
- ・前月比は+0.0%、前月(+0.7%)から減速した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:エネルギーがそれ以外の物価上昇を相殺する構図

まず、5月のH I C Pの品目別成長率を「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」「エネルギー」「食料品(アルコール含む)」の3区分に分けて見る。

コア部分の「エネルギーと飲食料を除く総合」は前年同月比で加速に転じており、内訳としては「エネルギーを除く財」が若干減速³、「サービス」は若干加速となった(図表3)。ただし、前月比

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 日本の消費者物価指数のコアコアC P I、米国の消費者物価指数のコアC P Iに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料ものを除いており、日本のコアコアC P Iや米国のコアC P Iとは若干定義が異なる。

³ 飲食料も除く。

ベースで見ると、「エネルギーと飲食料を除く総合」もその内訳である「エネルギーを除く財」、「サービス」も+0.0%の伸び率となり、4月（それぞれ前月比+0.7%、+0.6%、+0.8%）まで見られた上昇圧力が5月に入ってほとんど見られなくなったと言える。

次に「エネルギー」を見ると、5月も下落基調が続いており、前年同月比▲12.0%、前月比▲1.7%となっている。その結果、前年同月比寄与度では、▲1.26%ポイントまでマイナスを拡大させている（前掲図表1・2）。

一方、「飲食料（アルコール含む）」は前年同月比+3.3%とやや高めの上昇が続いている（図表3）。ただし、上昇ペースは減速しており、前月比では、前月比+0.2%（4月は前月比+1.1%）の上昇にとどまっている。内訳を見ると、加工食品・アルコールが若干加速しているものの、4月にかけて急上昇していた未加工食品が落ち着いた

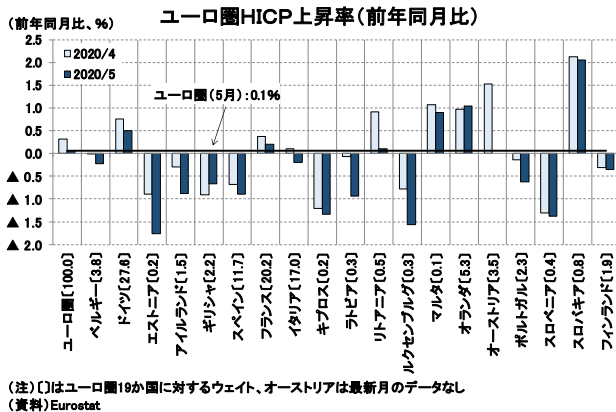
（前月比で4月3.4%→5月+0.1%）要因が上昇ペースの減速要因として大きい。

全体としてみると、「コア部分」と「飲食料」の上昇ペースが緩やかになるなかで、「エネルギー」が引き続き下落する構図となった。その結果、総合指数は前月比ベースで若干下落している。

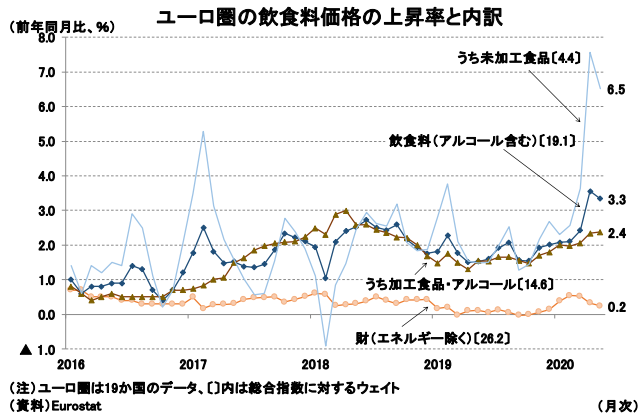
5月の国別のHICP上昇率を見ると（図表4・5）、未公表のオーストリアを除く18カ国中12カ国で前年同月比マイナスとなった。5月はウェイトの大きいイタリアがマイナスに転じている。ウェイトで最大のドイツは4月に続きプラス圏にとどまっているものの、上昇圧力は強くない（前年同月比+0.5%、前月比では+0.0%）。その他プラス圏となっている国も物価上昇圧力がある国はほとんど見られなくなっていると言える。

世界的には原油価格には下げ止まりの兆候が見えるものの、ユーロ圏ではこれまで物価上昇要因となってきた生活必需品の食料品価格の上昇圧力も一服している。今後も、エネルギーとそれ以外の価格の綱引きが続く構図になると見られるが、経済活動に制限がかかるなかで財・サービスの価格には上昇圧力が生じにくく、インフレ率はしばらくゼロ%近辺での推移となるだろう。

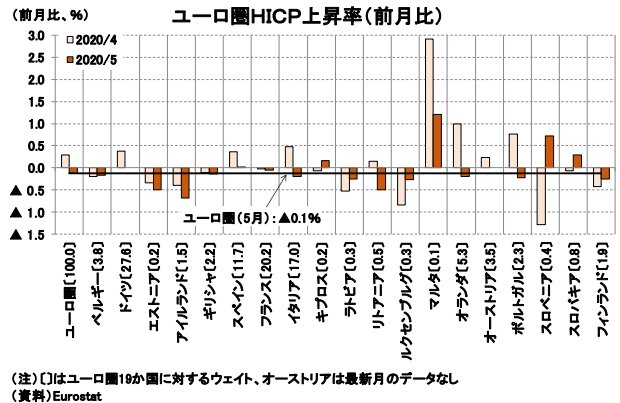
（図表4）



（図表3）



（図表5）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。